

平成23年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年9月13日

上場会社名 アイ・ケイ・ケイ株式会社 上場取引所 大  
 コード番号 2198 URL <http://www.ikk-grp.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)金子 和斗志  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)登田 朗 TEL 050-3539-1122  
 四半期報告書提出予定日 平成23年9月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年10月期第3四半期の連結業績(平成22年11月1日～平成23年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年10月期第3四半期	8,644	△8.7	759	△49.4	712	△49.9	△84	—
22年10月期第3四半期	9,465	—	1,500	—	1,421	—	754	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年10月期第3四半期	△22.84	—
22年10月期第3四半期	227.81	227.77

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年10月期第3四半期	12,523	4,844	38.7	1,309.58
22年10月期	13,510	5,016	37.1	1,355.91

(参考) 自己資本 23年10月期第3四半期 4,844百万円 22年10月期 5,016百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年10月期	—	0.00	—	23.50	23.50
23年10月期	—	0.00	—		
23年10月期(予想)				23.50	23.50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年10月期の連結業績予想(平成22年11月1日～平成23年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,144	△4.3	1,360	△19.9	1,273	△20.5	211	△74.9	57.26

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年10月期3Q	3,699,500株	22年10月期	3,699,500株
23年10月期3Q	128株	22年10月期	74株
23年10月期3Q	3,699,406株	22年10月期3Q	3,314,152株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響によりサプライチェーンの混乱や製造業における生産活動の停滞、個人消費の低迷等、厳しい状況が続きましたが、徐々に生産体制や個人消費は持ち直しつつあります。しかしながら、原発や電力供給の制約の問題に加え、海外景気の減速、急激な円高などの影響により、景気の先行きにつきましては、依然として不透明な状況が続いております。

ウェディング業界におきましては、平成22年の婚姻件数は70万6,000組と推計され（厚生労働省「平成22年人口動態統計の年間推計」）、ゲストハウス・ウェディングの需要は底堅く推移しておりますが、専門式場やホテルのリニューアル、価格競争の激化、顧客ニーズの多様化等により、業界内の競合は引き続き厳しさが増しております。

このような状況のもと、当社グループは、「お客さまの感動のために！」という企業信念に基づき、お客様の「感動の最大化」を図るため接客力・企画提案力の向上に努め、地方都市を中心に堅実に店舗展開を進めてまいりました。具体的には、お客様の多様なニーズに対応するため、平成23年4月に当社では初めてとなるレストラン「キュージーン フランセーズ ラ・チャンス」（富山支店レストラン）をオープンいたしました。また、従来とは異なる顧客層をメインターゲットとし、初期投資を抑え、オペレーションを効率化した新たなコスト構造での婚礼事業を展開していくため、「スイート ヴィラ ガーデン株式会社」を設立するなど、積極的な事業展開に努めてまいりました。

しかしながら、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、盛岡支店のオープン日が当初計画から1ヶ月以上遅れた他、いわき支店が一時的な営業停止を余儀なくされたこと等により、挙式・披露宴の延期、キャンセルが発生いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,644百万円（前年同四半期比8.7%減）、営業利益は759百万円（前年同四半期比49.4%減）、経常利益は712百万円（前年同四半期比49.9%減）となりました。また、特別損失として、東日本大震災及び原発事故の影響に伴う減損損失650百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額51百万円、災害による損失131百万円等を計上したことにより、四半期純損失は84百万円（前年同四半期は754百万円の四半期純利益）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。また、報告セグメントは前第3四半期連結累計期間の事業区分と同一であるため、前年同四半期比較を行っております。

## ① 婚礼事業

いわき支店が東日本大震災の被害を受けたこと等により施行組数が減少した他、平成23年4月にオープンした「キュージーン フランセーズ ラ・チャンス」（富山支店レストラン）及び8月にオープン予定の「ララチャンスベルアミー」（盛岡支店）の出店費用が発生しました。この結果、売上高は8,392百万円（前年同四半期比9.0%減）、営業利益は742百万円（前年同四半期比50.2%減）となりました。

## ② 葬儀事業

売上高は252百万円（前年同四半期比2.1%増）、営業利益は17百万円（前年同四半期比97.6%増）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## ① 資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末に比べ986百万円減少し12,523百万円となりました。これは主に、「キュージュー フランセーズ ラ・シャンス」（富山支店レストラン）及び「ララシャンスベルアミー」（盛岡支店）の取得等により有形固定資産が257百万円増加した一方で、現金及び預金が1,693百万円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ815百万円減少し7,679百万円となりました。これは主に、短期借入金600百万円の増加及び資産除去債務269百万円の計上によるものと、未払法人税等が670百万円、長期借入金が922百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ171百万円減少し4,844百万円となりました。これは主に、四半期純損失84百万円を計上したことと86百万円の期末配当を実施したことによるものであります。また、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.6ポイント上昇し38.7%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,693百万円減少し1,860百万円となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は266百万円（前年同四半期は1,858百万円の収入）となりました。資金増加の主な内訳は、減価償却費629百万円、減損損失650百万円であり、資金減少の主な内訳は、仕入債務の減少額210百万円、法人税等の支払額1,067百万円であります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は983百万円（前年同四半期は712百万円の支出）となりました。これは主に、「キュージュー フランセーズ ラ・シャンス」（富山支店レストラン）及び「ララシャンスベルアミー」（盛岡支店）の有形固定資産の取得による支出であります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は443百万円（前年同四半期は151百万円の収入）となりました。これは主に、短期借入金の増加600百万円、長期借入金の返済による支出922百万円、配当金の支払額86百万円であります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、平成23年5月13日付公表の予想数値から変更しております。詳細につきましては、本日（平成23年9月13日付）公表の「特別損失（減損損失）の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要(連結の範囲の変更に伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

1) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2) 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化がなく、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっており、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化があるか、または、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益がそれぞれ12,020千円減少し、税金等調整前四半期純損失が63,998千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は229,367千円であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,860,257	3,554,162
売掛金	218,498	313,982
商品	84,793	74,790
原材料及び貯蔵品	69,189	64,912
その他	385,996	212,985
貸倒引当金	△6,394	△7,830
流動資産合計	2,612,340	4,213,002
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,921,809	6,764,983
土地	1,578,983	1,578,983
その他（純額）	423,440	322,925
有形固定資産合計	8,924,233	8,666,892
無形固定資産	111,420	96,510
投資その他の資産	875,867	534,189
固定資産合計	9,911,521	9,297,592
資産合計	12,523,862	13,510,595
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	399,156	609,953
短期借入金	600,000	—
1年内償還予定の社債	70,000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	1,177,972	1,249,172
未払法人税等	5,612	676,368
賞与引当金	84,675	149,438
災害損失引当金	48,770	—
その他	1,255,876	1,104,828
流動負債合計	3,642,061	3,859,760
固定負債		
社債	115,000	150,000
長期借入金	3,136,908	3,987,713
退職給付引当金	67,652	61,573
役員退職慰労引当金	205,315	195,322
ポイント引当金	46,528	42,101
資産除去債務	269,484	—
負ののれん	—	858
その他	196,294	197,167
固定負債合計	4,037,183	4,634,736
負債合計	7,679,245	8,494,496

（単位：千円）

	当第3四半期連結会計期間末 （平成23年7月31日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成22年10月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	336,568	336,568
資本剰余金	340,224	340,224
利益剰余金	4,167,940	4,339,374
自己株式	△115	△67
株主資本合計	4,844,617	5,016,098
純資産合計	4,844,617	5,016,098
負債純資産合計	12,523,862	13,510,595

## (2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年11月1日 至平成23年7月31日)
売上高	9,465,526	8,644,421
売上原価	4,215,321	3,918,178
売上総利益	5,250,204	4,726,242
販売費及び一般管理費	3,749,505	3,966,351
営業利益	1,500,699	759,890
営業外収益		
受取利息	390	353
受取手数料	—	3,104
祝金受取額	3,220	—
負ののれん償却額	1,287	858
その他	9,826	3,082
営業外収益合計	14,725	7,399
営業外費用		
支払利息	60,632	45,126
その他	33,313	9,715
営業外費用合計	93,945	54,841
経常利益	1,421,478	712,447
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,241	—
災害保険金	—	66,558
特別利益合計	1,241	66,558
特別損失		
固定資産除却損	6,969	14,056
減損損失	—	650,612
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	51,978
災害による損失	—	131,663
特別損失合計	6,969	848,310
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,415,750	△69,303
法人税、住民税及び事業税	697,239	265,423
法人税等調整額	△36,477	△250,230
法人税等合計	660,761	15,192
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△84,496
四半期純利益又は四半期純損失(△)	754,988	△84,496

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年11月1日 至平成23年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,415,750	△69,303
減価償却費	667,758	629,449
負ののれん償却額	△1,287	△858
減損損失	—	650,612
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	51,978
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,472	69
賞与引当金の増減額(△は減少)	△61,565	△64,763
災害損失引当金の増減額(△は減少)	—	48,770
退職給付引当金の増減額(△は減少)	6,524	6,079
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	15,648	9,993
ポイント引当金の増減額(△は減少)	5,041	4,427
固定資産除却損	6,969	14,056
受取利息及び受取配当金	△394	△358
支払利息	60,632	45,126
シンジケートローン手数料	823	749
株式交付費	18,312	—
売上債権の増減額(△は増加)	19,526	94,892
たな卸資産の増減額(△は増加)	45,474	△14,280
仕入債務の増減額(△は減少)	△144,865	△210,797
その他	128,183	△360,643
小計	2,181,060	835,200
利息及び配当金の受取額	394	358
利息の支払額	△59,714	△45,256
シンジケートローン手数料の支払額	△201	—
法人税等の還付額	2,257	10,499
法人税等の支払額	△265,164	△1,067,554
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,858,630	△266,752
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△667,772	△938,913
無形固定資産の取得による支出	△14,040	△26,754
その他	△30,703	△18,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△712,516	△983,668
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	600,000
長期借入れによる収入	464,100	—
長期借入金の返済による支出	△749,115	△922,005
社債の償還による支出	△35,000	△35,000
株式の発行による収入	471,445	—
自己株式の取得による支出	—	△48
配当金の支払額	—	△86,430
財務活動によるキャッシュ・フロー	151,430	△443,483
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,297,545	△1,693,905
現金及び現金同等物の期首残高	1,890,540	3,554,162
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,188,085	1,860,257

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年11月1日 至 平成22年7月31日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める「婚礼事業」の割合が、いずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年11月1日 至 平成22年7月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年11月1日 至 平成22年7月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

〔セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年11月1日 至 平成23年7月31日)

当社グループの報告セグメントは、婚礼事業及び葬儀事業であります。葬儀事業の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。